

## メディア・コミュニケーション研究所

所長（法学部教授） 澤井 敦

メディア・コミュニケーション研究所は、今からおよそ 75 年前、1946 年に新聞研究室としてスタートしました。その後、1961 年には新聞研究所となり、さらに 1996 年の創立 50 周年を機に現在のメディア・コミュニケーション研究所という名称になりました。こうした名称変更は、メディアや情報環境の変化に柔軟に対応していこうという研究所の基本的姿勢の現れでもあります。

メディア・コミュニケーション研究所は、研究機関としてのみならず、教育機関としてもまた充実した活動を続けています。研究所では、毎年入所試験を実施し、現在では大学 2 年次からの 3 学年、合計約 200 名の学生(研究所では研究生と呼んでいます)が学んでいます。修了生の中には、優れたジャーナリストとして、また、広告・PR 業界の中核として活躍している方个性的で優れた仕事をしているジャーナリスト、また、メディア関連企業の経営者となった方もいます。もちろん、すべての研究生がメディアや広告・PR 業界に進わけではなく、それ以外の業種で活躍する修了生も多数います。ただ、この研究所での真摯な学びの経験、また、教員、研究生、OBOG との多彩なコミュニケーションから得られた経験は、修了生全員にとって、人生を歩んでいくうえで大きな糧となっているはずです。

従来のメディアが依然として大きな影響力を保ちつつも、インターネットを基盤とした新しいメディアやツールが次々と登場し、私たちの日々のコミュニケーションの様相は、かつてないほどのスピードで大きく変化しつつあります。メディア・コミュニケーション研究所が重視しているのは、このような情報環境の急速な変化の中で、単に情報を収集・整理するだけでなく、それらに対峙しつつ、「自分の考え」をしっかりと立ち上げ、明確に表現する力です。こうした力を培うために、研究所スタッフ、研究生は、互いに切磋琢磨しつつ、日々努力を続けています。

### カリキュラム

研究所設置科目には、「基礎科目」、「基礎演習」、「特殊研究」、「研究会」の 4 つの科目群があります。このうち、「基礎科目」は、研究生以外(2 年生以上)も履修可能なオープン科目となっています。2 年生以上であれば、三田設置科目を含めて履修可能ですが、学部によっては履修できない場合もあるため、所属学部の履修案内で確認してください。また、所属学部における単位の取扱いについても、所属学部の履修案内で確認してください。

## 2022年度メディア・コミュニケーション研究所開設科目一覧

\*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可

設置地区	科 目 名	単位数	担当者
三田	マス・コミュニケーション論Ⅱ(法学部併設)	秋2	山腰 修三
三田	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ(法学部併設)	春2	近藤 和都
三田	マス・コミュニケーション発達史Ⅱ(法学部併設)	秋2	近藤 和都
三田	国際コミュニケーション論Ⅱ(法学部併設)	秋2	津田正太郎
三田	メディア社会論Ⅰ(法学部併設)	春2	平井 智尚
三田	メディア社会論Ⅱ(法学部併設)	秋2	烏谷 昌幸
三田	メディア法制Ⅰ	春2	鈴木 秀美
三田	メディア法制Ⅱ	秋2	鈴木 秀美
三田	ジャーナリズム論Ⅰ	春2	津田正太郎
三田	ジャーナリズム論Ⅱ	秋2	津田正太郎
三田	世論Ⅰ	春2	平井 智尚
三田	世論Ⅱ	秋2	平井 智尚
三田	情報行動論Ⅰ	秋2	小寺 敦之
三田	情報行動論Ⅱ	秋2	坂井 直樹
三田	異文化間コミュニケーションⅠ	秋2	羽生 浩一
三田	メディア文化論Ⅰ	春2	小川(西秋)葉子
三田	メディア文化論Ⅱ	秋2	小川(西秋)葉子
三田	コミュニケーション調査法Ⅰ	春2	李 津娥
三田	コミュニケーション調査法Ⅱ	秋2	李 津娥
三田	プラップジャパン寄附講座 広報・PR論Ⅰ	春2	茅島 秀夫
三田	プラップジャパン寄附講座 広報・PR論Ⅱ	秋2	茅島 秀夫
三田	読売新聞寄附講座 現代ジャーナリズム総論Ⅰ	春2	津田正太郎・林田晃雄
三田	読売新聞寄附講座 現代ジャーナリズム総論Ⅱ	秋2	津田正太郎・林田晃雄
三田	情報通信政策Ⅰ	春2	片桐 広逸
三田	情報通信政策Ⅱ	秋2	片桐 広逸
三田	映像メディア論Ⅰ	春2	小川(西秋)葉子
三田	映像メディア論Ⅱ	秋2	小川(西秋)葉子
日吉	マス・コミュニケーション論Ⅰ(法学部併設)	春2	山腰 修三
日吉	社会心理学Ⅰ(法学部併設)	春2	李 津娥
日吉	社会心理学Ⅱ(法学部併設)	秋2	李 津娥